

# あおぞら財団 年次報告書

## Vol.5

2001.4~2002.3

### もくじ

事業のあらまし 2

活動から 4

財政状況 18

インターンレポート 20

2002年10月

財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

## 2001年度事業のあらまし

全体をととして	2001年は設立から5年を迎え、中長期事業計画や財政計画からみて、節目となる年度であった。第12回理事会（2000年11月）で、それまでの経緯を踏まえて、昨年秋の環境再生・NGO国際会議、市民参加をすすめるアセス事業の開拓を重点事業として確認し、それぞれにおいて担当理事及び事務局が奮闘し、一定の成果をおさめることができた。また、西淀川地域における地域団体との共同事業についても、徐々に広がりつつある。さらに、貨物自動車・環境TDMの提言活動や公害学習パネルの作成など、この成果に対しても外部からの関心が高まりつつある。
財務	今年度の方針を受けて、各種行事などに際して、寄附の募金、書籍（公害学習パネルなど）の普及に努めたことにより、例年を倍する寄附を得ることができた。
組織活動	賛助会員は、3月末時点で個人197人、法人等42団体と漸減傾向を脱していない。秋からの諸行事に向けて、10月には賛助会員を広げるために新版のリーフレットを作成した。 8月より5ヵ月間、みずしま財団の新人職員・白神加奈子さんを受け入れて、環境再生NGO国際会議や新年度事業の立ち上げ等に従事してもらった。また、今年度も(財)大学コンソーシアム京都からのインターン生2名と、新たに桃山学院大学からも1名を受け入れた。
総務・渉外	西淀川公害患者と家族の会・30周年行事の成功に向けて協力するとともに、財団職員全員がこれに参加した。 環境省によるNGO環境政策提言フォーラム（7/11）への政策提言の公募に対して、あおぞら財団からは「阪神地域における貨物自動車・環境TDMにむけた社会実験」の提言を応募したところ、発表7団体のひとつに選ばれた（応募56団体）。 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議神戸・淡路会合（EMECS21、11/18-22）に際して、森脇理事長が運営委員に、傘木研究主任がプログラム部会及び関連事業部会の委員として、NGOフォーラムの運営や環境教育フェアの運営・展示に協力した。片岡研究員は大阪府体験的環境学習推進事業検討委員を務めた。達脇研究員は、昨年度に引き続き、大阪人権博物館第3次基本計画策定委員会ワーキング委員を務めた。 森脇理事長が環境省新採用職員研修（I種）で講師を務めたのははじめ、JICA研修や各種団体や大学、小・中・高校の視察・見学を受け入れるとともに、各地の自治体（大田市、鯖江市、神戸市）、公民館（四條畷市、茨木市）、住民団体やNPO等が主催する学習会への講師派遣を行なった。

## ●部門別事業

	事業名	各事業の概要	Libella・あおぞら通信掲載号
A-1 西淀川地域再生事業	西淀川道路環境対策	2001年度の調査研究の成果をふまえて、2002年度は「大阪市臨海部における貨物自動車の使用自主管理に関する調査（環境省請負）」を実施し、環境ロードプライシングに関する課題の抽出、改正NOx・PM法、物流効率化施策などに対する事業所の取り組み状況の把握などをおこない、貨物交通にかかわる各主体の課題と役割を整理した。 あわせて、提言（「阪神地域における貨物自動車・環境TDM社会実験の提言」）の実現にむけて、環境TDM政策やトラック輸送をテーマとしたシンポジウムを開催した。 西淀川道路環境対策検討会を8回開催し、上記の調査活動等について報告や検討をおこなった。また、阪神高速道路公団や国土交通省近畿地方整備局など関係機関との交渉や懇談会などに参加した。	No.58、59、65
	まちづくり推進活動	西淀川地域の地区交通と沿道法を活用したまちづくりをすすめるため、NPO法人地域デザイン研究会と共同で調査をおこなった。 「まちづくり考える会」と協力して、歌島橋交差点や西淀川区役所建替え問題で行政や関係機関と交渉をすすめるとともに、区内の各団体との懇談会や連続学習会（全5回）を開催した。	
	自然観察・環境調査活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンポポの分布調査（5月13日・20日、於：大阪市西淀川区全域）</li> <li>セミの抜け殻調査（8月19日、於：大阪市西淀川区全域）</li> <li>西淀川自然文化協会と連携した矢倉海岸での生きもの調査</li> </ul>	No.62 あおぞら通信No.5
A-2 環境再生政策形成事業	環境再生・国際ワークショップ開催	「21世紀を環境再生の時代に ―NGO国際会議と市民のつどい」を11月23、24日に北九州市で開催。約250人が参加し「北九州アピール」を採択した。海外からは韓国、中国、台湾、タイ、フィリピン、インド、ドイツ、イギリス、イタリアから12人が参加した。11月20、21日は神通川流域視察（タイタイ病）、11月25、26日は水俣視察を海外参加者を対象におこなった。	No.59、63、64
	大気生活環境改善事業	2001年度環境省請負業務「平成12年度都市のオープンスペースを活用した良好な大気生活環境の展開に関する調査」の成果を生かし、市街地における「五感に働きかけるオープンスペース」をコンセプトにした、市民による環境保全活動のハンドブックを作成した。	
	温暖化防止に関する調査活動	温暖化防止をすすめる対策として、環境問題に対する「知識」と「行動」とを結びつける市民の「気付き」を促す仕組みが重要であることから、アンケート調査等をおこない、得られた情報に基づいて、効果的な普及・啓発施策のあり方を検討した。	
	住民参加型アセス推進事業	【「参加型アセスの手引き」の編集・発行】 平成12年度の環境省請負調査「住民参加による環境影響評価手法に関する調査」の成果をもとに、普及用の冊子を編集し、財務省印刷局より発行された。 【西須磨道路づくり支援】 神戸市須磨区（西須磨地域）における道路計画をめぐって、天神町3-4-5丁目自治会の取り組みを支援し、ワークショップ6回、住民アンケートや訪問対話活動などを補佐した。本業務は、事業者（神戸市）と設計コンサルタント会社との連携により、住民が指名したコーディネーター（あおぞら財団）がファシリテーターの役割を務めた。	
ベイエリア調査	NPO政策研究所が主催する「サステイナブル・コミュニティ研究会」の取り組みとして、大阪湾ベイエリアにおける低・未利用地の有効活用を市民参加による自然再生事業として展開する方策について事例などを調査し、提言をまとめた。		

		事業名	各事業の概要	Libella・あおぞら通信掲載号	
地域づくり	A-3 環境保健推進事業	園芸リハビリテーション活動	<p>【高齢者を対象とした取り組み】</p> <p>西淀川公害患者と家族の会の会員が参加して、西淀川区内の民間サービスハウス「ひまわりの家」の庭で、園芸療法を活用したプログラムをおこなった(年間28回/参加者:毎回8人前後)。2001年度からは、「大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校」の園芸福祉コースの実習授業(講師:太田周作特別研究員)として活用された。</p> <p>【小児を対象とした取り組み】</p> <p>大阪府立羽曳野病院アレルギー小児科の協力をえて、同科に長期入院中の小・中学生の難治性気管支喘息児を対象として、園芸療法を活用したプログラムをおこなった(年間約180回)。2001年度からは、新たな試みとして、幼児も対象とした。1997年から5年間の活動のとりまとめの年度として位置づけ、取り組みをすすめた。</p>	No.57, 60	
		環境保健事業推進調査	<p>【環境省委託調査】</p> <p>環境省からの委託業務として、公害病認定患者等の療養生活の向上に関する調査研究を2001年度から3ヵ年の予定で取り組むこととなり、専門委員会の指導を得て検討を進めた。</p> <p>【大牟田市委託調査】</p> <p>大牟田市からの委託業務として、「大牟田市公害健康被害補償福祉事業検討調査事業」を実施した。同市の公害病認定患者の実態や保健福祉事業に対するニーズを調査するとともに、転地療養パイロット事業を試行的に実施し、効果的な事業の実施における課題などについて検討した。</p> <p>【アンケート調査への協力】</p> <p>西淀川公害患者と家族の会が実施した「健康回復事業等に関する会員意識アンケート調査」のとりまとめに協力した。</p>	No.69	
公害経験	B-1 公害問題資料 保存・活用事業	資料保存(委託事業:デジタルアーカイブ化に関する調査研究)	<p>公害健康被害補償予防協会委託業務報告書「大気汚染公害問題資料の保存とデジタル・アーカイブ化に関する調査研究」2001年度 大気公害問題資料に関するデジタル・アーカイブ化についての現状と課題について検討した。患者会関係者への資料保存の現状についてのアンケート調査は、今後の課題抽出に有効であった。</p> <p>資料のデータベース化をすすめて、西淀川公害訴訟関係弁護士・住民運動資料第1次目録(第4集)を作成した</p>		
		公害問題資料保存研究会	公害問題資料を初めとする現代史料の保存と活用について研究会において検討した。また、リハビリおおさかの企画展に協力した。		
		公害問題史研究(西淀川地域研究会)	西淀川地域研究会を2001年9月に発足させ、2002年3月まで5回の研究会を開いた。近現代史の研究者、学生、地域の運動関係者などが参加。定例的な研究会になりつつある。	No.63, 66, 67	
		リハビリおおさか企画展協力	大阪人権博物館の2000年度企画展「西淀川公害と地域の再生」に患者会と協力した。リハビリおおさかに患者の語り部コーナーを提案し、実現した。活動の成果は、Libella65(2002年3月)、66号(2002年4・5月号)、展示品リスト、チラシ、広報誌リハビリに反映した。	No.65, 66	
		海外研修受け入れ・公害経験の交流等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「環境紛争処理H中国際ワークショップ」(於:北京)へ参加・報告</li> <li>韓国司法研修生、JICA研修などの受け入れ</li> </ul>	No.61	
	B-2 公害・環境学習 プログラム形成事業	環境基本計画推進調査	環境省委託事業「パートナーシップによる環境教育・環境学習の推進調査」を実施した。	No.68	
		交通環境学習に関する研究	『交通環境教育のすすめ～SCPブロックでみる地域環境の変化～』(環境省請負事業:環境に配慮した地域づくりにおける学習プログラム作成に関する調査研究)を作成すると同時にワークショップを実施した。	No.67	
		公害・環境学習プログラム開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会の実施(8回実施)</li> <li>「西淀川公害に関する学習用パネル～知っていますか?西淀川の公害～」の作成</li> <li>手引書「子ども版環境マップづくり」の検討(せいわエコクラブとの連携)</li> <li>「子どもチャリンコチャンピオン」の実施(10月27日、於:西淀公園)</li> <li>出前授業、フィールドワーク、見学などの受け入れ</li> </ul>	No.58, 60, 62 あおぞら通信No.5	
	活動交流・広報	C-1 活動交流事業	環境市民活動向け講座活動	環境アセスメント講座は、エルおおさかで、様々な立場の講師を招き、実践的な講座を開講した(定員60人、4回)。地球環境問題総合講座は尼崎のNPO法人シンフォニーの協力を得て、尼崎中小企業センターで開催した(定員506人、4回)。	No.64, 67
			大町市民講座	長野県大町市が主催する環境セミナーの企画をコーディネートするとともに、講師を派遣した。	
C-2 広報		リベラ・年報・あおぞら通信	機関紙Libella(年10回・No.56～65)および「年次報告書Vol.4(2000.4～2001.3)」を発行した。「あおぞら通信」は随時発行に切り替え、7月にNo.5を発行した。		
		インターネット・ホームページ更新	各事業に関するイベントや事業概要については、ホームページ上で広く参加の募集や情報提供をおこなった。とくに「環境再生・NGO国際会議の案内」については、日本語版・英語版で開催を知らせた。また、環境アセスメント講座など、講座活動の受講事業にもメーリングリストなどを積極的に活用した。		

## 「21世紀を環境再生の時代に—NGO国際会議と市民のつどい」の開催

鎗山善理子

国際会議の開催は、あおぞら財団にとって初めてのことであった。この会議の「よびかけ団体」である7つの団体の代表者と環境分野の専門家たちと約1年前から準備をすすめてきたが、事務局としてどのような業務がどれだけ発生するのか手探り状態でのスタートだった。

### 多くの人たちの協力で成功

会議の開催地が大阪からは離れた北九州で、海外の参加者には富山や水俣での視察をプログラムに組み込んだことで、移動の多いスケジュールとなり、さらに英語と中国語の通訳や運営ボランティアの手配が必要になるなど、業務が多岐にわたった。そのため、この事業には財団職員が総出で取り組み、早川光俊・財団理事は事務局長を担った。

同じく事務局の「みずしま財団」からは白神加奈子さんが、2001年8月より当財団の事務所でこの業務にあたり、ボランティアのコーディネートや分科会の調整などを担当した。また、複数の国と地域からNGO関係者を招聘するとあって、海外との連絡業務には在間敬子さんにアルバイトとして協力してもらった。富山や水俣、北九州の視察には、受け入れや通訳の面で

さまざまな協力をいただいた。

北九州で開催された会議には、地元のみならず全国から参加者が集まり、さまざまな感想を寄せていただいた。なかでも西淀川公害患者と家族の会から参加した会員さんたちの感想には、財団の活動に対する喜びや励ましの声がいっぱいだった。

本当に多くの方々のかかわりと協力によってこの事業を成功させることができた。

### 「北九州アピール」を採択

会議の最後に採択した北九州アピールでは、本会議で確認されたことを次のようにまとめている。

- ・地域の環境とくらしを再建する市民の取り組みが世界各地に力強く広がっていること
- ・環境破壊を引き起こした原因者の責任を明確にし、処罰を含めた適切な措置がなされるべきであること
- ・原因者と政府の政策によって環境再生が行われるべきであること
- ・市民（住民）を主体としたパートナーシップによる環境再生の事業をおしすすめていかなければならないこと

(やりやま よりこ)

#### <事業の概要>

日程：2001年11月20日～27日

- 21日 神通川流域視察
- 23日 NGO国際会議（北九州）
- 24日 NGO国際会議、市民のつどい（北九州）
- 25日 水俣視察
- 26日 水俣視察

主催：環境再生にむけたNGO国際会議よびかけ団体（※）、全国公害患者の会連合会

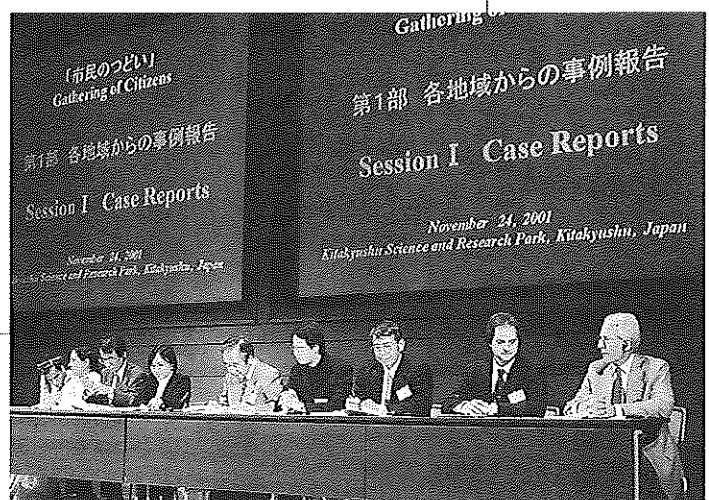
共催：（財）イオングループ環境財団

※よびかけ団体

- アジア太平洋九州都市環境フォーラム
- 沖縄環境ネットワーク
- 気候ネットワーク
- （財）公害地域再生センター（あおぞら財団）
- 滋賀県環境生活協同組合
- 全国公害被害者総行動実行委員会
- 日本環境会議

本会議については当日の要旨集（日・英）と記録集をお分けできます。

詳しくは当財団までお問い合わせください。



# 笑顔がいっぱい「園芸クラブ」

矢羽田 薫

あおぞら財団が、西淀川区内で公害患者さんの健康づくり・生きがいづくりを目的とした園芸リハビリテーション活動をはじめ、3年目を迎えた。2001年度からは、区内の佃にあるミニデイサービスハウス「ひまわりの家」の庭を借りて、4月から12月まで、毎週1回のプログラムを実施した。

この活動には、大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校の全面的な協力をいただいた。園芸指導は同校の太田周作さん(財団特別研究員)が担当、園芸・福祉コースを専攻している学生が、実習授業として参加し、毎回の活動やプログラム後の懇談の機会を通じて交流を深めた。

今年からはじめてプログラムに参加する患者さんも多かったものの、

もともと園芸に興味のある人ばかりで、にぎやかな活動となった。また、西淀川公害患者と家族の会では、会の園芸クラブとしてこの活動を位置付け、機関紙等で活動の様子が報告されている。

また、「ひまわりの家」には、「庭」をお借りしているほか、毎日の植物の管理や灌水を引きうけていただくなど、大変お世話になった。

プログラムへの参加を通じて、患者さんには、植物の播種から収穫、試食まで、植物が目に見えて生長する変化を楽しむ機会が提供できた。また、高度な技術を要する園芸作業を取り入れたことは好評であった。グループでの活動というスタイルも、参加者間の交流を深める上で有用であり、年間のプログラムが修了した後の懇談会でも、「みんなで一緒にできて良かった」「来年も楽しみにしている」という感想がよせられた。今年度の成果を生かして、来年度もよりよいプログラムを提供できるよう、活動を計画したい。(やはた かおる)

## プログラムの内容

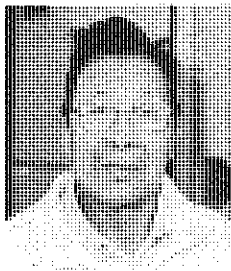
月 日	月 日
4 19 アンケート、春播き草花の播種	9 6 夏植秋咲き球根の鉢植
26 春植球根の定植、鉢植	13 秋播き草花の播種
5 10 春播き草花の間引き及びポット上げ	20 秋播き草花の間引き、ポット上げ
17 春播き草花のポット上げ及び定植	27 観葉植物の取木
24 観葉植物、多年生草花のさし木	10 4 秋咲き草花の寄せ植え
31 野菜苗の定植(含サツマイモ)	11 秋播き野菜の播種
6 7 観葉植物、多年生草花のさし木及び苗の鉢上げ	18 秋播き野菜の間引き
14 ハンギングバスケット作り(さし木苗を使って)	25 観葉植物の取木はずし
21 多年生草花の株分け	11 8 春播き草花の採種
28 観葉植物の水さし、ヤナギの水さし	15 サツマイモ掘り、ヤキイモ
7 5 熱帯花木のさし木、夏野菜のテンブラ	22 秋植え球根の水栽培
12 多肉植物の葉さしと茎さし	29 秋植え球根の鉢植え
19 熱帯花木のさし木、苗の鉢上げ	12 6 熱帯性植物の冬越し対策
26 多肉植物のさし木、苗の定植	13 クリスマスのための寄せ植え



真安さん

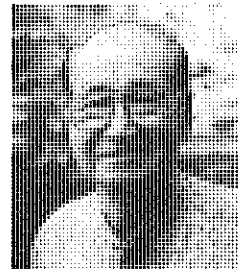


真田さん

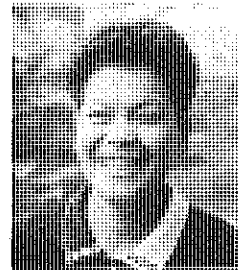


酒井さん

槇峰さん



西さん



池永さん



西さん

## 「ひまわりの家」の活動紹介

「ひまわりの家」代表 遠地 昭典

「ひまわりの家」は、日常生活圏内に、街にどけこんだ小規模の老人ホームをつくらうとの運動のなかから生まれました。この地域に住んでいる方はだれでも自由に楽しく過ごせる「もう一つの家」として、またボランティアとともに「もう一つの家族」として生活できる場所です。

ひまわりの家の1日は、午前10時から、それぞれ気楽に集まってなごやかに懇談、健康体操など、また趣味をいかしてカラオケや折り紙、紙漉などを自由にやりながら昼食、レクリエーションで1日を楽しんでいます。

## リバティおおさか企画展「西淀川公害と地域の再生」の開催

達脇 明子

### 企画展の開催まで

2002年1月22日（火）から2月17日（日）までリバティおおさか・大阪人権博物館で企画展「西淀川公害と地域の再生」が開催された。

この企画展の担当者であったリバティおおさかの小島伸豊・教育普及課長は、「大阪人権博物館の展示と教育事業」（大阪人権博物館紀要第5号2001）で、地域と博物館のあり方にふれて、「地域博物館という地域とはサービス領域の限定された博物館を指すわけではない。むしろ、博物館を目的や機能に応じて相対化する概念として理解すべきである」「形式的に一定の領域を前提におかれている博物館というだけでは地域社会・住民のものにはならないのであり、博物館が地域の問題状況や住民意識・ニーズと向き合い、かつ、住民との相互関係を形成して活動を展開することが不可欠なのである」（長谷川賢二氏「地域史展示の課題」徳島地方史研究会『史窓』27号、1997年）と指摘するように、「博物館が自覚して地域指向を目指しコミュニティとの一体化を目指すことが必要なのである」と述べている。さらに小島氏は、あおぞら財団を「環境保全やまちづくりの活動に関心のある市民とともに西淀川での公害被害と住民の公害反対運動の経歴をいかして、西淀川の地域資料の収集や語り部の活動、まちづくりの担い手の育成に取り組み、公害博物館（仮称）の実現に向けて「地域の再生」を基本としたフィールドミュージアム事業に取り組んでいる」と紹介し、「フィールドとなる地域の特性を活かした博物館の機能も

必要である」と述べている。

このような地域と博物館とのあり方を前提に、リバティおおさかでは、2005年にリニューアルされる第3次常設展示の作業が進行中で、テーマのひとつに「公害被害者」が設定されている。このリニューアルの基本的な考え方として、①大阪を中心とした公害被害の歴史と被害者の運動に焦点をあてる、②街づくりや環境再生の取り組みを展示するということがあげられており、そのさきがけとしてこの企画展が催されたのであった。

### 展示と語り部

おりしも2002年10月は西淀川公害患者と家族の会結成30周年にあたり、この節目ともいえる時期に、公的な施設での展示がおこなわれたことは、患者会の高齢化が進むなかで、大気汚染公害被害の実態とその反対運動の歴史が多くの人々の目に触れ、公害被害者への理解を深めてもらうきっかけができた。

この展示準備を進めていく過程で、これまで西淀川公害被害の象徴のように本やビデオに登場してきた南竹照代さんの生前の資料が、保管してこられた谷智恵子弁護士からあおぞら財団に寄託されたことは、この企画展を一層充実させるものとなった。

また、会期中に、公害被害の実態を語るために患者さんにも語り部として参加するコーナーをつくっていただいたことは、患者会の人々にとっても、公害被害体験の伝承の新たなスタートになった。一般の来館者を前に自分のことを語ることは、これまでの訴えとはまた違った体験でもあったようである。

語り部として参加した濱本修子さんは「人前で話すことは、わたしにとっては初めてです。証言の1回目は文章を持つ手がふるえて止まらないので困りました。（中略）本当にいい体験をさせていただき、皆さんの一生懸命、涙ながらに証言なされている姿を見て感動しました。

（中略）排気ガスの恐ろしさ、公害病の苦しみを多くの人たちに知っていただくため、一言でも証言させていただいたことに感謝します」と感想を述べている。



## 記念イベント

会期中の2002年2月2日（土）には、2時間にわたって「西淀川公害被害と地域の再生」と題する記念イベントが開催された。森脇君雄・西淀川公害患者と家族の会会長、あおぞら財団理事長の半生を芝村篤樹・桃山学院大学教授が時代背景の解説を交えながら聞くという形であった。この時の内容は、リベラ№65、66の2回にわたって掲載した。

森脇理事長は、自分が話したことが活字になるということで、正確を期そうと何度も手を入れ、資料にも当たって補充もした。当日の話以外も書き込もうとする様子に、対談記事ではなくなると説得をする場面もあった。理事長自身が自らを振りかえって、改めて30年にわたる運動の歴史を実感したできごとだったのではなかったか。展示終了後も、未発掘の議案書や機関紙などの収集に、患者会をあげて取り組んでいる。

## 公害資料と博物館展示

展示終了後に小島氏から、リベラに「公害資料と博物館展示」と題する文章を寄せていただいた。

（前略）

今回、当館ではじめて「西淀川公害被害と地域の再生」を開催しました。展示にあたって、西淀川での公害被害と被害者運動が具体的に伝わってくる資料を選びました。資料の選択にあたって、まず目録の中から2つの視点にあうような資料を選びました。今回かなりの数の資料を閲覧することができましたが、実物資料、とりわけ運動資料の場合、失われていくという危険性がいつもそこにあるわけです。何百、何千と印刷されたピラも年数が経つと「あのピラ、あったけどなー」ということで、実物はだれも持っていなかったということになるのです。当事者運動は資料を集めるためにあるのではなく、その意味からも当然、「あつかましい」と言われようと、誰かが、いや、何処かが資料を集めることが必要なのです。その意味では、運動をすすめるながらも資料を丹念に集められた方々の努力が、この展示では実を結んだとも言えます。田中千さんの集められた膨大な資料がなければ、

この展示は恐らく実現できませんでした。

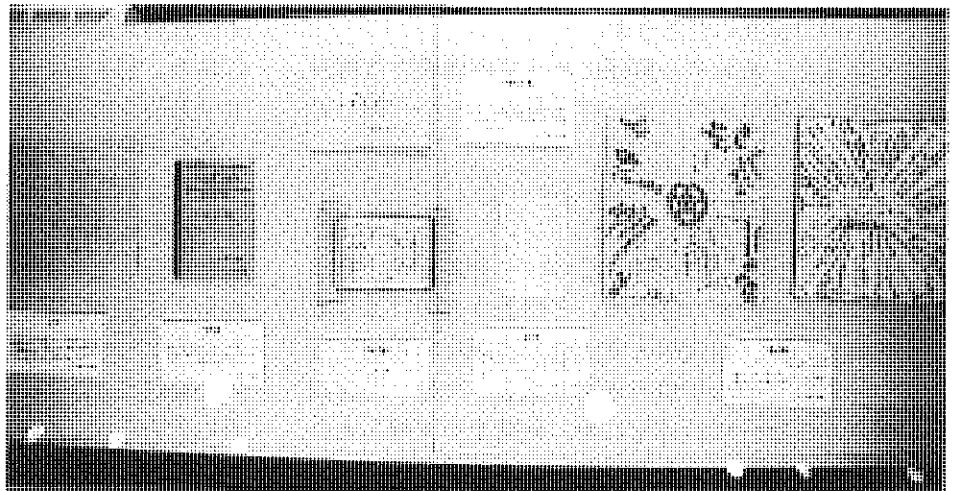
さらに、今回の企画では患者会から「語り部」として会場で自らの被害体験をお話ししていただくこともできました。来館者のアンケートには「語り部の方のお話しは心を打たれました。経済成長の残した負の遺産の公害について皆が考えなければならぬと感じました」という声もありました。このように博物館で公害資料の展示や資料の収集を行うようになったのは、ごく最近のことです。しかし、資料は散逸し公害被害への社会の関心も薄れていくのです。

遠回りなようでも、散逸した資料を丹念に集めることが問題の解決にいつか役立つ時がくるのです。それがこれからのあおぞら財団の活動の大切な仕事なのです。

この文章は、公害問題資料保存の重要性と意義を端的に言い得ている。これからのあおぞら財団の使命についても明確に述べてある。

この企画展を新たなスタートにして、被害者運動から生まれたあおぞら財団が率先して、公害問題資料を保存し活用していくこと、関係者の記憶を伝えていくことが重要なのである。この活動により多くの支持と協力を得るための体制づくりをしていくことが、長年公害根絶を訴えてきた被害者の思いに応えることになると確信し、活動していきたいと思っている。

（たつわき あきこ）



## 資料保存と公開の問題

林 美帆

私が公害地域の資料のデータベース製作にたずさわって、3年になる。この3年は多数の資料を目録化できたという目に見える成果を残したと共に、私自身の意識をこの事業に関して受身から能動へと変化させた年月であったともいえる。その変化の経過を述べたいと思う。

### 受身から能動へ

1年目は、西淀川について何もわからず、資料保存についての常識もわからず、ただ目の前にある資料を、資料の価値や背景がわかりもしないまま、既存の枠に入力しつづけるのみであった。2年目は、資料保存や整理方法の絶対的基準はないのだと気がつきはじめ、また自分の視点をもって、患者会の歴史を把握しながら、資料を見始めた。3年目は、あおぞら財団にとっての資料のあり方について考え、自分の意見を発押しようと、態度を受身から能動に切り替えた。

受身から能動へと変化したきっかけは、「わからない」のが恥だと思っていたけれど、あおぞら財団にとっての絶対的な基準はなく、また財団に自治体の方法論を、そのまま当てはめるのは違和感があると気付いたところにある。たとえば、あおぞら財団は自治体と違い、無限に資料を受入れることはできない。だから、自治体の方法論を財団に当てはめるには、無理があるということだ。

ゆえに、あおぞら財団が何を伝えたいと思っているのか、何をしたいと思っているのかという視点に立脚して、あおぞら財団の資料保存・公開を考えるのが、ここには必要だと気付いたということになる。「わからない」のがあたりまえであり、そこから考えていけばいい。その手助けとして既存の方法論がある。既存の考え方に当てはめるのではなく、ここ独自のあり方でいいのではないだろうか。

そうなると、あおぞら財団にとっての資料とは何か、資料保存・公開は何のために行うのか、という問いが発生する。

### あおぞら財団と資料

まず、財団にとっての資料についてであるが、私はこう考える。あおぞら財団は、どのような力によってつくられたのか。西淀川大気汚染公害訴訟の和解を受けてつくられたのは周知の事実である。では、公害裁判の原動力になったのはなにか。弁護士が主導したわけではない。あくまでも主役は、西淀川公害患者と家

族の会である。そしてこの裁判は、患者会運動の一環である。それでは、患者会運動とは何か。患者自身の病状改善と、病気の原因である地域社会の問題を改善する。つまり療養と地域改善である。その原動力になったのは、患者の被害と苦しみであり、それを自分一人のこととして受けとめるのではなく、隣人や未来にも起こりうることとして受けとめているからこそ運動をする。先に正しいとされる理論があって、それに従って運動したわけではない。自分のやむにやまれぬ苦しみと、未来へつなぐ者という意識から出発した運動である。あおぞら財団にとっての軸はここにあると私は思う。

では、資料とこの思いはどうつながるのか。資料とは残したい、伝えたいと思う主体があって残るものであり、その主体の気持ちが資料に意味をもたせる。ゆえに、財団にとって大切な資料とは、患者会が行ってきた運動にかかわる資料ということになるだろう。

### 見えないナビゲーター

つぎに保存・公開についてであるが、財団は利用者、どうすればわかりやすく伝わるかを考える必要があるだろう。その為にする作業が整理である。しかし、整理は難しい。なぜなら闇雲に並べるだけでは、整理にはならない。どこに何があって、それは何を意味するかを、利用者に説明できることが整理なのではないだろうか。つまり、所蔵している資料を、財団が体系的に理解していなければ、利用者に伝わらない。それは財団が整理に対してビジョンを持つということだろう。またこう言い換えることもできる。資料だけでは語りかける力は微力である。ただの紙切れは、やはりただの紙切れに過ぎない。歴史を後世に伝えていきたいという主体的な気持ちが、資料の背後にあるからこそ、その資料が意味を持つ。つまり整理とは、資料の背後にある、見えないナビゲーターであり、そのナビゲーターをつとめるのが、あおぞら財団の主観なのだろう。

あおぞら財団における資料保存・公開に関する問題点は、2つあると考える。あおぞら財団の歴史的理解と、資料整理・保存事業のビジョンについてである。それら2つとも絶対的なものではなく、あおぞら財団が主体となって考え、作り出していく事業なのだと思う。またこの2つは、関連しあっている。歴史を伝えたいという気持ちが、整理を促し、公開に導いていくのではないだろうか。



## 目録化済み資料の一覧および概要

それでは、3年間で目録化した資料の概要を述べたい。  
あおぞら財団にある資料の性格は、2つに分けられる。運動関係と弁護団関係である。なぜ2つに分けるのか。先に述べたとおり、患者会の運動が主であり、弁護団の活動（裁判）は、患者会があってこそであり、従と位置付けられると考えられるからである。

### 【運動関係】

#### 団体資料

- 西淀川公害患者と家族の会資料（3000点）（調査中）  
西淀川公害患者と家族の会が姫島の事務所をから現事務所に引越す際に、あおぞら財団が引き受けた資料。患者会の初期資料から、裁判闘争終了時までが含まれる。西淀川の運動のみならず、全国的なつながりも、この資料から伺うことができる。

#### 個人資料

- 大阪から公害をなくす会雑目録（736点）  
大阪における公害反対住民運動の中心的役割を果たす団体で、患者会との関係も深い。ファイル整理済みなので、一点一点の細目録ではなく、ファイルごとの目録になっている。
- 田中千代恵氏資料（547点）  
千北病院のレントゲン技師であった田中千代恵氏の資料。田中氏は西淀川公害患者と家族の会設立に関わった関係上、患者会設立期の資料と、医療関係の資料を所有。
- 永野千代子氏資料（1020点）  
西淀川公害患者と家族の会会員である永野千代子氏の所蔵資料。公害地域指定解除当時の、中央・地方運動関係の資料が多い。
- パリ国際会議関係資料（13点）  
森脇君雄氏所蔵資料。リオ環境サミットの前段階として開かれたパリ国際会議に、森脇氏が出席した際に受け取った資料。
- 芹沢芳郎氏資料（25点）  
大阪から公害をなくす会初代事務局長。ファイル化されているので、表題のみデータ化。

また、弁護団関係も運動関係も、団体所蔵の資料と個人所蔵の資料に分類できる。団体所蔵の資料は、運動の全体を明らかにする性格を持ち、個人所蔵の資料は、その運動の中でその個人がたずさわった活動を具体的に明らかにする性格を持っているといえよう。

（奈良女子大学大学院・はやし みほ）

### 【弁護団関係】

#### 団体資料

- 弁護団収集資料（9500点）  
弁護団事務所から移管された資料群。主に被告企業に対する書証作成のために集められた資料である。原告の被害論にかかわる部分は担当弁護士が個人的に所有している。

（峯田勝次弁護士資料と関田政雄弁護士資料は、弁護団収集資料に含まれている）

- 弁護団所蔵雑誌目録（2306点）

弁護団収集資料内の雑誌を、論文名レベルで目録化したもの。

#### 個人資料

- 村松昭夫弁護士所蔵資料（541点）  
村松弁護士が担当した原告の資料（甲ア号証）。原告調査票などの原告の病状をつづったものや、戸籍謄本・住民票などの個人情報。
- 谷智恵子弁護士所蔵資料（99点）  
谷弁護士が担当した原告、南竹照代氏の資料と、西淀川公害教育関係（昭和40年代）の資料。南竹照代氏の資料は、日記や写真類であり、リバティおおさかの企画展に使用された。

## 学校との新たな関係づくり

片岡 法子

### <学校が市民参加の場になる?!>

2002年度から小・中・高等学校では、「総合的な学習の時間」が導入されることになりました。これは、それぞれの学校が独自のカリキュラムで進めるもので、特に、地域の人材・資源を活かした授業づくりが求められています。教室という場、授業づくりという作業は、これまでは学校以外から介入することは不可能に近かったといって過言ではありません。しかし、そこに外部の知恵と資源を投入していくことになるらしい?!これは、正に学校における市民参加といえるのではないかと、あおぞら財団でも新たな可能性を求めて取り組みを行うことになりました。

### <研究会の立ち上げ>

2000年秋、小・中・高等学校の先生、エコクラブの実践者、交通工学の専門家によって「西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会」を立ち上げました。

そもそもあおぞら財団では、公害の経験と教訓を踏まえた環境教育・学習の活動を行うことを設立の目的に掲げています。地域の資源として、これを学習プログラム・教材として展開するにはどうすればいいのか、立場や分野を超えて検討を続けてきました。

その結果、2000年度は、「知っていますか?西淀川の公害~西淀川公害に関する学習用パネル~」(B3版、16枚組み、フルカラー、解説・資料集付)と「交通環境学習のすすめ~SCPブロックでみる地域環境の変化~」を作成。秋に実施した「子どもチャリンコチャンピオン」では、多くの学生さんのボランティアでこれを成功させることもできました。

### <いざ学校へ>

こうした蓄積を踏まえ、区内外の学校からあおぞら財団に西淀川公害に関する授業への協力依頼がくるようになりました。西淀川公害患者と家族の会とも共同し、公害病患者さんによる語り部を中心に、あおぞら財団で作成した教材を利用しながら、公害被害の経験を伝え、これからの環境問題について考えることのできるプログラム展開を模索してきました。

当初は、学校の側も患者会やあおぞら財団の側も手探り状態。どうすれば子どもたちに思いを伝えることができるか悩みながらのスタートとなりましたが、子どもたちの反応やお互いの意見交換を重ねながら、よりよい関係性づくりをめざしています。

(かたおか のりこ)



### ●各種受入の内容

内 容	実施・対象団体
出 前 授 業	歌島小(11/27)、姫里小(11/29)、佃小(3/1)、姫島小(3/6)、なかよし学童保育(8/2)
フィールドワーク、見学受入	名古屋市立富士中学校(5/23)、大阪自由学校(6/26)、甲南高校(10/30)、桃山学院大学芝村ゼミ(11/12)、関西NGO大学(1/20)、西淀川高等学校耐寒行事(2/8)
SCPブロックワークショップ	西淀川高等学校(11/9・12・13)、神戸開発教育教育研究会(3/2)

# 矢倉海岸でビオトープ実験を提案—西淀自然文化協会とともに

上田 敏幸

あおぞら財団と(社)大阪自然環境保全協会が生み出した西淀自然文化協会。財団では大野川緑陰道路や矢倉海岸をフィールドにした自然観察、自然の素材を活かした手作り工作などの取り組みを通して、地域づくりに貢献しようと活動している同協会とともに、ビオトープ学習と子どもたちの参加による生きもの調査に着手した。

## <取り組みの目標>

矢倉ビオトープ(池づくり)にむけた初年度の目標として

- (1)先進事例に学ぶなどビオトープそのものの理解を広げるとともに、実践予定地の野鳥、いきもの、自然観察、水質調査など、四季の観察データを蓄積する。
- (2)実践を担う人材養成とネットワークづくり、活動の主体となる子どもたちへの啓発。  
などに取り組むことを掲げた。

## <学び・調べる活動を軸に>

4回開催した大人の学習会では、四季の矢倉地域の樹木といきもの調査を軸に毎木調査や野鳥観察に取り組んだ。ほぼ並行して取り組んだ子どもたちによる調査活動では「遊ぶ」ことをメインにしながらも、ごみ調べ、いきものさがし、魚釣りなど子どもたちの興味と関心を高め、同地域での活動につながるネットワークづくりを主眼に取り組んだ。

大人、子どもともほぼ当初計画どおり実施したが、調査項目の設定や天候(強風)による調査内容の変更、子どもの参加による調査への未熟さなどもあって、未消化の調査項目もあった。この点では調査手法の改善、指導者の習熟に務めるとともに継続した取り組みが求められる。

ビオトープ先進地見学では、(計画では二色浜を予定していたが講義体制の問題もあって兵庫県立人と自然の博物館に変更)活動や実践に取り組む構えと主体形成の重要性を学んだ。その後同有馬富士公園で自然観察フィールドワークに取り組んだ。

## <矢倉で「ビオトープ」を提案>

こうした活動やこれまでの大野川緑陰道路での自然観察の成果をふまえて2001年12月には、「大野川緑陰道路と矢倉緑地公園をつなぐ自然観察ゾーンづくりの提案」をつくり、各方面に対話と協働をよびかけた。

2002年3月28日には、矢倉海岸に下水道施設建設を計画している大阪市都市環境局と懇談、参加者からは、矢倉海岸の環境への配慮を求める声が相次いだ。同地でのビオトープ実験の実施を求める要望については、実現にむけ前向きに検討することを表明した。

## <活動を通して>

- (1)エコクラブなどによびかけ、継続して子どもの参加を組織することにより、実践にむけたネットワークづくりが進んだ。
- (2)自然とのふれあいを通して、主体者としての子どもたちへの啓発となった。
- (3)矢倉地域の自然観察、調査を通して四季の観察データが蓄積された。
- (4)ビオトープの実施などの提案に行政も耳を傾けるようになり、継続して話し合う場が生まれた。

(うえだ としゆき)



## ●矢倉緑地ビオトープ調査・学習会の記録

日時	参加者	内 容	
2001年 6月19日	9人	第1回調査・学習会	「ビオトープってなんだ」の学習
8月24日	18人(子ども11人)	第1回生きものしらべ	磯の生きものしらべ・エコ工作(水鉄砲)
9月19日	14人	第2回調査学習会	昆虫、植物、野鳥の調査
9月22日	56人(子ども52人)	第2回生きものしらべ	草地の生きもの調査、シャボン玉あそび
12月19日	14人	第3回調査学習会	緑地公園、干潟・水辺の調査
2002年 1月12日	34人(子ども30人)	第3回生きものしらべ	冬鳥観察、ごみしらべ、手作りたこあげ

## 活動日誌

2001年4月

- 3日(火) 公害資料保存調査四日市市視察
- 4日(水) 事務局会議  
リベラ編集会議  
国際エメックス会議関連事業部会(委員:傘木)  
第5回西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
- 5日(木) 環境再生国際ワークショップ北九州ヒアリング  
なぎさ海道ワークショップ打ち合わせ(参加)
- 6日(金) 職員ボーリング大会
- 7日(土) NHKとおき関西クイズバトル録画撮り(エコクラブ出演)  
神鋼石炭火力発電所問題勉強会(講師:傘木)  
茨木道路問題学習会(講師:傘木)
- 9日(月) 主任会議
- 10日(火) 事務局会議  
資料保存専門委員会
- 11日(水) まちづくり考える会事務局会議  
AMネットヒアリング
- 12日(木) 主任会議  
大阪テクノ・ホテル園芸専門学校「園芸福祉コース実習授業」オリエンテーション
- 13日(金) 住民参加による環境影響評価手法に関する調査検討委員会(第1回)  
環境省新採用職員研修(Ⅰ種)(講師:森脇理事長)  
「ひまわりの家」運営委員会(参加)
- 16日(月) NGO国際会議第1回企画会議
- 17日(火) 事務局会議  
国際エメックス会議関連事業部会打ち合わせ
- 18日(水) 西淀自然文化協会総会(参加)
- 19日(木) 主任会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム  
第18回西淀川道路環境対策検討会
- 20日(金) 国際エメックス会議関連事業部会
- 21日(土) 矢倉海岸定例探鳥会  
日本環境会議環境再生政策研究会公害地域再生部会(参加)
- 22日(日) アースデータンポ調査  
公害地球環境問題懇談会総会(参加)
- 23日(月) リベラ発送
- 24日(火) 事務局会議  
まちづくり考える会事務局会議  
社会福祉・医療事業団助成金事務説明会(参加)
- 25日(水) にしよど自然ふれあい塾開校式(参加)
- 26日(木) 主任会議  
リベラ編集会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム  
まちづくり考える会総会
- 28日(土) 西須磨道路づくり事業打ち合わせ

5月

- 1日(火) 地球環境戦略研究機関(iGES)北九州事務所打ち合わせ  
(財)広島県環境保健協会打ち合わせ  
西須磨ワークショップ打ち合わせ
- 2日(水) エコクラブ打ち合わせ
- 3日(木) 名古屋南部公害訴訟弁護団会議(参加)
- 7日(月) 事務局会議
- 8日(火) 貨物自動車を対象にした環境TDM政策を考える一調査研究報告会一
- 9日(水) にしよど自然ふれあい塾
- 10日(木) 主任会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム
- 11日(金) 「ひまわりの家」運営委員会(参加)
- 13日(日) 第2回タンポ分布調査
- 14日(月) NGO国際会議第1回よびかけ団体会議
- 15日(火) 国際エメックス会議NGOフォーラム打ち合わせ(委員:傘木)
- 16日(水) 事務局会議  
立命館大学政策科学部講義「政策科学入門」(講師:傘木)
- 17日(木) 「ひまわりの家」園芸プログラム  
国際エメックス会議関連事業部会(委員:傘木)  
日本環境会議環境再生政策研究会道路環境再生部会(参加)
- 18日(金) 立命館大学政策科学部講義「政策科学入門」(講師:傘木)  
主任会議  
市役所労働組合保育所西淀川分会勉強会(講師:傘木)
- 19日(土) 矢倉海岸定例探鳥会  
国際評価学会(IAIA)研究発表会(参加)
- 20日(日) タンポポ結実率調査
- 21日(月) 事務局会議  
吹田市亥の子谷コミュニティ第5期講座(講師:矢羽田)
- 22日(火) 西淀川公害患者と家族の転地療養事業(参加、~23日)
- 23日(水) にしよど自然ふれあい塾  
大学コンソーシアム京都インターンシップ受入に関する打ち合わせ  
名古屋市富士中学校修学旅行(受入)
- 24日(木) 内部監査  
「ひまわりの家」園芸プログラム  
西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
- 25日(金) リベラ発送
- 26日(土) なぎさ海道ワークショップ(参加)
- 28日(月) 「都市のオープンスペースを活用した大気生活環境施策の展開に関する調査」第2回専門委員会
- 29日(火) 事務局会議  
第8回サステイナブル・コミュニティ研究会(委員:傘木)
- 30日(水) 主任会議  
第5回「西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会」(報告:傘木)
- 31日(木) 「ひまわりの家」園芸プログラム

6月

- 1日(金) 茨木市立太田地区公民館「生き生き塾」講演(講師:傘木)  
羽曳野病院喘息患児対象園芸療法プログラム打ち合わせ
- 2日(土) 第26回全国公害被害者総行動大阪代表団結団式(参加)
- 3日(日) 第1回天神町道路づくりワークショップ
- 4日(月) リベラ編集会議
- 5日(火) 事務局会議
- 6日(水) 東京農業大学特別公開講座講演(講師:森脇理事長)  
国際エメックス会議関連事業部会(委員:傘木)
- 7日(木) 第26回全国公害被害者総行動デー(参加、~8日)  
「ひまわりの家」園芸プログラム
- 9日(土) せいわエコクラブ「遊び場ウォッチング」(参加)  
環境法政策学会(参加)
- 10日(日) 全国保険医団体連合会近畿ブロック公害環境担当者会議(受入)
- 11日(月) 西淀自然文化協会幹事会
- 12日(火) 事務局会議  
第19回西淀川道路環境対策検討会
- 13日(水) にしよど自然ふれあい塾
- 14日(木) 主任会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム
- 16日(土) 矢倉海岸定例探鳥会  
公害環境測定研究会シンポジウム(参加)
- 18日(月) 第8回評議員会  
住民参加による環境影響評価手法に関する調査検討委員会(第2回)
- 19日(火) 事務局会議  
天神町道路づくりワークショップ打ち合わせ
- 20日(水) 考える会事務局会議
- 21日(木) 主任会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム  
大阪市域の交通問題を考える検討会(参加)
- 23日(土) 日本環境会議環境再生政策研究会公害地域再生部会(参加)  
財団法人水島地域環境再生財団評議員会(出席:森脇理事長)
- 24日(日) 大阪自由学校視察(受入)
- 25日(月) 事務局会議  
リベラ発送  
阪神高速道路公団「環境ロードプライシングの試行に係る資料」第1回説明会
- 26日(火) 桃山学院大学文学部総合講座(講師:達脇)
- 27日(水) 主任会議  
にしよど自然ふれあい塾
- 28日(木) 「ひまわりの家」園芸プログラム
- 29日(金) 西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
- 30日(土) 第14回通常理事会  
社会福祉・医療事業団「子育て支援セミナー」(参加)

7月

- 3日(火) 事務局会議
- 4日(水) にしよど自然ふれあい塾
- 5日(木) 主任会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム
- 6日(金) NGO国際会議第2回企画会議
- 7日(土) 学校と地域の融合教育研究会(参加、~8日)  
伊勢湾再生シンポジウム(報告:傘木)
- 8日(日) 「ひまわりの家」開設1周年のつどい(参加)
- 10日(火) 事務局会議  
リベラ編集会議  
第30回公害環境デー 第2回実行委員会(委員:達脇)
- 11日(水) にしよど自然ふれあい塾  
NGO環境政策提言フォーラム(発表:傘木)
- 12日(木) 北九州市長と森脇理事長の対談  
「ひまわりの家」園芸プログラム
- 13日(金) 四条市人権シリーズ講座(受入)
- 14日(土) 尼崎公害患者・家族の会総会(参加)  
地域デザイン研究所西淀川視察(受入)
- 16日(月) 事務所模様替え
- 17日(火) 事務局会議
- 18日(水) 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)近畿部会  
第57回例会(参加)
- 19日(木) 四条市人権シリーズ講座(受入)  
「ひまわりの家」園芸プログラム  
日本環境会議道路環境再生部会(参加)
- 21日(土) 矢倉海岸定例探鳥会  
アース基金協会設立10周年記念総会(参加)
- 23日(月) 韓国司法修習生視察(受入)  
「都市のオープンスペースを活用した大気生活環境施策の展開  
に関する調査」第3回専門委員会  
桃山学院大学インターン生研修開始(~8月3日)  
西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会  
システム・アナリスト・ソサエティ関西支部例会(報告:傘木)
- 24日(火) 事務局会議  
第5回世界閉鎖性海域環境保全会議(エメックス)関連事業部会  
(委員:傘木)
- 25日(水) にしよど自然ふれあい塾  
第20回西淀川道路環境対策検討会
- 26日(木) 主任会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム  
エメックス関連事業部会作業(委員:傘木)
- 31日(火) 2000年度事業総括会議

- |   |   |
|---|---|
| <p>8月</p> <p>3日(金) 考える会事務局会議<br/>大学コンソーシアム京都インターン生研修開始(～2002年1月)<br/>花火大会鑑賞会</p> <p>4日(土) NPO全国フォーラム2001(参加、報告:傘木)</p> <p>5日(日) 大阪環境ネット発足総会(参加)</p> <p>7日(火) 事務局会議</p> <p>8日(水) 名古屋裁判和解確認式<br/>にしよど自然ふれあい塾(講師:傘木)</p> <p>9日(木) 主任会議<br/>サステイナブル・コミュニティ研究会(委員:傘木)</p> <p>10日(金) リベラ、年次報告書発送<br/>大牟田市公害健康被害補償福祉事業検討調査事業事前ヒアリング</p> <p>17日(金) 日本環境教育学会総会(参加、～19日)</p> <p>18日(土) 考える会懇談会<br/>矢倉海岸定例探鳥会</p> <p>19日(日) セミのぬけがら調べ</p> <p>20日(月) 住民参加による環境影響評価手法検討委員会(第3回)</p> <p>21日(火) 事務局会議</p> <p>22日(水) にしよど自然ふれあい塾<br/>阪神高速道路公園ロードプライシング事業第2回説明会</p> <p>23日(木) 第30回公害環境デー第3回実行委員会(委員:達協)<br/>大阪から公害をなくす会30周年相談会</p> <p>24日(金) エコクラブ矢倉調査<br/>第4回国際保健医療行動科学会議(発表:矢羽田、～26日)<br/>西淀川公害患者と家族の会班長・役員合同会議(報告:傘木)<br/>西淀川地域研究会準備会</p> <p>25日(土) 社会教育推進全国集会(参加、～27日)</p> <p>28日(火) 事務局会議<br/>リベラ編集会議</p> <p>29日(水) にしよど自然ふれあい塾<br/>大阪市教職員組合教西大阪支部夏季学習会(講師:傘木)</p> <p>30日(木) 主任会議</p> | <p>9月</p> <p>1日(土) エメックス関連事業部会(委員:傘木)</p> <p>2日(日) 倉敷公害患者と家族の会総会(参加)</p> <p>3日(月) 市民フォーラムー尼崎21世紀の森構想を考えるー(参加)<br/>日本環境会議環境再生政策研究会公害被害地域再生部会(参加)</p> <p>4日(火) 事務局会議<br/>サステイナブル・コミュニティ・フォーラム2001(報告:傘木)</p> <p>5日(水) まちづくり考える会懇談会<br/>コソボ高校生との交流会</p> <p>6日(木) 「ひまわりの家」園芸プログラム<br/>茨木市立三島地区公民館講座(講師:傘木)<br/>まちづくり考える会会宿(参加、～7日)</p> <p>8日(土) 天神町道路づくり子どもワークショップ</p> <p>11日(火) 事務局会議</p> <p>12日(水) 主任会議</p> <p>13日(木) 「ひまわりの家」園芸プログラム<br/>環境紛争処理日中国際ワークショップ(参加、～19日)</p> <p>14日(金) 西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会</p> <p>15日(土) 矢倉海岸定例探鳥会<br/>公民協同と公共性研究会(参加)</p> <p>18日(火) 大牟田市公害健康被害補償福祉事業検討調査事業第1回検討会</p> <p>19日(水) 西淀自然文化協会矢倉海岸ビオトープ調査(参加)</p> <p>20日(木) 事務局会議<br/>リベラ発送<br/>「ひまわりの家」園芸プログラム<br/>大阪府体験的環境学習推進事業第1回検討委員会(委員:片岡)<br/>日本環境会議環境再生政策研究会道路環境再生部会(参加)</p> <p>22日(土) エコクラブ矢倉調査</p> <p>25日(火) 事務局会議<br/>まちづくり考える会懇談会<br/>第21回西淀川道路環境対策検討会</p> <p>26日(水) 第1回西淀川地域研究会<br/>第30回公害環境デー第4回実行委員会(委員:達協)</p> <p>27日(木) 主任会議<br/>「ひまわりの家」園芸プログラム<br/>外島保養院慰霊祭(参加)</p> <p>30日(日) 人間・植物関係学会大会(参加)</p> |
|---|---|

10月

- 1日(月) リベラ編集会議  
第1回公害問題資料保存研究会
- 2日(火) 地球環境基金問題懇談会(参加)
- 3日(水) 環境基本計画推進調査第1回専門委員会
- 4日(木) 事務局会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム  
まちづくり考える会第1回学習会(参加)
- 5日(金) 主任会議
- 6日(土) (財)淀川勤労者厚生協会・友の会懇談会(参加)
- 7日(日) 天神町道路づくりワークショップ
- 9日(火) 事務局会議
- 11日(木) 主任会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム
- 13日(土) 西淀川公害患者と家族の会第30回定期総会(参加)  
2001・エコアクション大町(講師:傘木)
- 14日(日) 全国市民フォーラムinみなまた(参加)
- 16日(火) 事務局会議
- 17日(水) エメックス関連事業部会(委員:傘木)  
西宮北口北東地区まちづくりを考える会(講師:傘木)
- 18日(木) 主任会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム  
西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会  
阪神高速道路公団との懇談会(参加)
- 19日(金) NGO国際会議第3回企画会議  
真鍋正一監事告別式
- 20日(土) 矢倉海岸定例探鳥会  
神鋼石炭火力発電所公害問題中央区連絡会ふれあい懇談会(講師:傘木)
- 22日(月) リベラ発送  
事務局会議
- 23日(火) 国土交通省大阪国道工事事務所交渉(参加)  
大阪府体験的環境学習推進事業第2回検討委員会(委員:片岡)
- 24日(水) 神戸シルバーカレッジ・生活環境コース(講師:傘木)
- 25日(木) 第87回全国図書館大会(参加)  
「ひまわりの家」園芸プログラム  
大気汚染公害訴訟原告団・弁護団連絡会議、国土交通省交渉(参加)
- 26日(金) JICA中国国際交流センター研修受入
- 27日(土) どんぐりフェスタ(参加)、こどもチャリンコチャンピオン
- 30日(火) 事務局会議  
歌島小学校授業(講師:片岡)  
甲南高校「総合学習」フィールドワーク(受入)
- 31日(水) 主任会議  
リベラ編集会議  
西淀自然文化大学修了式  
第22回西淀川道路環境対策検討会

11月

- 1日(木) 第2回西淀川地域研究会
- 3日(土) 大阪教職員組合教育研究集会(報告:片岡)
- 4日(日) 西淀川公害患者と家族の会創立30周年記念レセプション(参加)  
西淀川公害患者と家族の会転地療養事業(参加、～5日)
- 6日(火) AHCAシューレ～マップづくりコース～セミナー(講師:傘木、～7日)  
飯島伸子前理事告別式
- 7日(水) 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第27回全国大会(参加:達脇、～9日)
- 8日(木) 「ひまわりの家」園芸プログラム  
大阪体育大学短期大学部「社会福祉援助技術各論Ⅱ」(講師:矢羽田)  
トヨタ財団ヒアリング
- 9日(金) 西淀川高校地理授業(参加、～13日)
- 10日(土) 第27回道路公害反対運動全国交流集会(参加、～11日)
- 11日(日) 鯖江市「かんきょう市民大学」(講師:傘木)
- 12日(月) 桃山学院大学芝村ゼミ研修(受入)  
まちづくり考える会事務局会議
- 13日(火) 事務局会議
- 14日(水) 神戸シルバーカレッジ・生活環境コース(講師:傘木)
- 15日(木) 主任会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム
- 16日(金) 歌島小学校5年生訪問
- 17日(土) 矢倉海岸定例探鳥会
- 18日(日) 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議環境教育フェア展示(参加、～19日)
- 19日(月) 事務局会議  
第5回世界閉鎖性海域環境保全会議開会式(参加)
- 20日(火) 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議NGOフォーラム(参加)
- 21日(水) NGO国際会議海外招聘者富山視察
- 22日(木) NGO国際会議海外招聘者北九州視察  
「ひまわりの家」園芸プログラム
- 23日(金) NGO国際会議(開催)
- 24日(土) NGO国際会議と市民のつどい(開催)
- 25日(日) NGO国際会議海外招聘者水保視察(～26日)  
全国建設政策研究交流集会(講師:傘木、～26日)
- 27日(火) 事務局会議  
リベラ編集会議  
歌島小学校5年生授業(見学)
- 28日(水) 山陽新聞取材  
西淀自然文化協会の歌島小学校4年生授業(見学)
- 29日(木) 第3回西淀川地域研究会  
姫里小学校4年生授業(講師:片岡)  
主任会議  
「ひまわりの家」園芸プログラム

12月

- 1日(土) 環境基本計画推進調査臨時検討会
- 2日(日) 第15回臨時理事会  
第5回天神町道路づくりワークショップ
- 3日(月) 第2回公害問題資料保存研究会
- 4日(火) 事務局会議  
大阪から公害をなくす会此花区視察(参加)
- 5日(水) 主任会議
- 6日(木) 名古屋南部公害訴訟原告団・弁護団西淀川視察  
「ひまわりの家」園芸プログラム  
まちづくり考える会「第1回不況・リストラ問題交流会」(参加)  
まちづくり考える会学習会(参加)
- 7日(金) JICA研修(受入)  
西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
- 8日(土) 日本環境教育学会関西支部大会(報告:片岡)  
月見山自治会勉強会(講師:傘木)
- 11日(火) 地球環境基金問題NGOワークショップ(参加)
- 12日(水) 沿道まちづくり懇談会
- 13日(木) 事務局会議  
日本自治学会関西大会実行委員会打合せ  
大阪から公害をなくす会30周年記念大会実行委員会(委員:達脇)  
「ひまわりの家」園芸プログラム
- 14日(金) 麻布大学視察(受入)  
人文科学とコンピュータシンポジウム2001(参加)  
第23回西淀川道路環境対策全体会
- 15日(土) 矢倉海岸定例探鳥会  
西淀川区の戦跡ウォークラリー(案内:上田、達脇)  
市民が進める温暖化防止会議(委員:上田)
- 18日(火) 環境報告書を読む会(参加)  
神戸シルバーカレッジ・生活環境コース(講師:傘木)
- 19日(水) 事務局会議  
西淀自然文化協会ピオトップ学習会(参加)
- 20日(木) 主任会議  
第1回公害健康被害補償予防協会委託事業資料保存専門委員会  
天神町総会
- 21日(金) 大阪府体験的環境学習推進事業検討委員会(委員:片岡)  
大牟田市公害健康被害補償福祉事業検討調査ヒアリング
- 25日(火) まちづくり考える会事務局会議  
NGO国際会議事務局会議
- 26日(水) リベラ発送  
名古屋南部公害訴訟弁護団視察
- 27日(木) 仕事納め

2002年1月

- 6日(日) 佛教大学シンポジウム(講師:片岡、上田)
- 7日(月) 天神町説明会
- 8日(火) 事務局会議  
西淀川区新春互礼会(参加)
- 9日(水) 西淀川公害患者と家族の会新春初顔合わせ会(参加)
- 10日(木) 公害団体合同旗開き(参加)  
大阪から公害をなくす会30周年記念大会実行委員会(委員:達脇)
- 11日(金) 環境アセスメントシンポジウム(参加)
- 12日(土) 天神町道路づくり説明・懇談会①  
こどもエコクラブ調査
- 15日(火) 天神町道路づくり説明・懇談会②
- 16日(水) 事務局会議
- 17日(木) 天神町道路づくり説明・懇談会③  
滋賀医科大学ゼミ生研修受入
- 19日(土) 第30回公害環境デー記念大会記念レセプション(参加)  
矢倉海岸定例探鳥会
- 20日(日) 関西NGO大学フィールドワーク(受入)
- 21日(月) 臨時事務局会議
- 22日(火) 区内小学校校長会  
事務局会議  
リバティおおさか企画展「西淀川公害と地域の再生」開催(~2月17日)  
語り部コーナー(参加)
- 23日(水) 「参加型アセスの手引き」発表記者会見(環境省、傘木)
- 24日(木) 川崎市TDM施策ヒアリング  
「ひまわりの家」園芸プログラム懇談会と修了式  
リバティおおさか語り部のためのヒアリング
- 25日(金) 主任会議  
大阪府環境総合計画案府民説明会(参加)  
第24回西淀川道路沿道対策検討会  
リバティおおさか語り部のためのヒアリング
- 27日(日) 第6回天神町道路づくりワークショップ
- 28日(月) 環境事業団地球環境市民大学校第1回地球環境問題総合講座(尾崎)
- 29日(火) 事務局会議  
第4回西淀川地域研究会  
リバティおおさか語り部コーナー(参加)  
日本環境会議環境再生政策研究会道路環境再生部会(参加)
- 30日(水) 環境基本計画推進調査第2回専門委員会  
大牟田市公害健康被害補償福祉事業検討調査事業ヒアリング
- 31日(木) 主任会議  
リバティおおさか語り部コーナー(参加)



2月

- 1日(金) まちづくり考える会「第2回不況・リストラ問題交流会」(参加)
- 2日(土) リバティおおさか記念イベント「西淀川公害被害と地域の再生」(講師:森聡理事長)
- 4日(月) 事業計画作成会議  
リベラ編集会議  
第2回地球環境問題総合講座(尼崎)
- 5日(火) 事務局会議  
環境事業団地球環境市民大学第1回環境アセスメント講座(大阪)
- 6日(水) 大牟田市公害健康被害補償福祉事業検討調査事業ヒアリング
- 7日(木) まちづくり考える会第3回学習会(参加)
- 8日(金) 主任会議  
西淀川高校耐寒行事(講師:傘木)  
リバティおおさか語り部コーナー(参加)  
西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会  
大牟田市公害健康被害補償福祉事業検討調査事業ヒアリング
- 9日(土) リバティおおさか語り部コーナー(参加)  
ジェンダーフォーラム in nishiyodo(報告:傘木)
- 12日(火) 事務局会議  
第2回環境アセスメント講座(大阪)  
第3回地球環境問題総合講座(尼崎)
- 13日(水) 事業計画作成会議  
リバティおおさか語り部コーナー(参加)
- 14日(木) 主任会議  
リバティおおさか語り部コーナー(参加)  
大阪から公害をなくす会「大阪市域の交通問題を考える検討会」(参加)
- 15日(金) リバティおおさか語り部コーナー(参加)
- 16日(土) 矢倉海岸定例探鳥会  
第4回地球環境問題総合講座(尼崎)  
リバティおおさか語り部コーナー(参加)
- 17日(日) リバティおおさか語り部コーナー(参加)
- 18日(月) 大気環境学習検討委員会(委員:傘木)
- 19日(火) 事務局会議  
第3回環境アセスメント講座(大阪)
- 20日(水) 医療保険制度学習会  
事業計画作成会議  
市民、NGO/NPO、企業、地方自治体及び環境省との連絡会(参加)  
「環境市民」ヒアリング
- 21日(木) 主任会議  
アセスメント技術展示会(出展)  
人と環境にやさしいトラック輸送を考える懇談会  
飛鳥地区協議会地元研修(講師:片岡)
- 22日(金) まちづくり考える会「第3回不況・リストラ問題交流会」(参加)
- 23日(土) 第4回環境アセスメント講座(大阪)
- 26日(火) 西淀川公害被害者と家族の会転地療養(参加、~27日)
- 27日(水) 環境基本計画推進調査第1回ワーキンググループ会議  
平成13年度公害病認定患者等の療養生活の向上に関する調査研究第1回専門委員会
- 28日(木) 主任会議  
大阪府体験的環境学習推進事業検討会(委員:片岡)  
インターン報告会  
事務局会議

3月

- 1日(金) 2002年度事業計画策定会議  
佃小学校授業  
除本ゼミヒアリング
- 2日(土) 交通環境教育とまちづくりを考えるワークショップ  
ヨハネスブルグサミット学習会(参加)
- 4日(月) 韓国新聞社視察(受人)  
「まちづくり考える会」事務局会議
- 5日(火) 事務局会議  
広報会議
- 6日(水) 西淀川自然文化協会幹事会(参加)  
姫島小学校授業
- 7日(木) 主任会議  
環境事業団監査  
大阪から公害をなくす会30周年実行委員会(参加)  
まちづくり考える会第4回学習会(参加)
- 8日(金) 大気汚染公害訴訟原告団・弁護士連絡会議国上交通省・環境省交渉(参加)
- 9日(土) WWFシギ千鳥シンポジウム(参加)  
中部の環境を考える会(報告:傘木)
- 12日(火) 事務局会議  
第25回西淀川道路環境対策検討会
- 13日(水) 日本環境会議道路環境再生部会(参加)
- 14日(木) 主任会議  
大阪から公害をなくす会「大阪市域の交通問題を考える検討会」(参加)
- 15日(金) 北九州市訪問  
大牟田市公害健康被害補償福祉事業検討調査事業第2回検討会
- 16日(土) 矢倉海岸定例探鳥会
- 19日(火) 事務局会議  
第9回評議員会
- 20日(水) 西淀川自然文化協会ピオトープ学習会(参加)  
第3回大気環境学習検討委員会(委員)
- 21日(木) 環境基本計画推進調査ワーキンググループ会議  
公害弁連総会・シンポジウム(参加)
- 22日(金) 公害弁連現地調査(参加)
- 24日(日) 第16回通常理事会
- 25日(月) 中央環境審議会ヒアリング(意見発表:矢羽田)
- 26日(火) 事務局会議
- 27日(水) 平成13年度社会福祉・医療事業団「喘息患児のQOL向上に着目した園芸活動」事業総括会議  
地球環境基金助成事業の評価を考えるワークショップ(参加)
- 28日(木) 主任会議  
大阪市都市環境局との懇談会  
第5回西淀川地域研究会
- 29日(金) 第20回日本環境会議松江大会(~31日、参加)

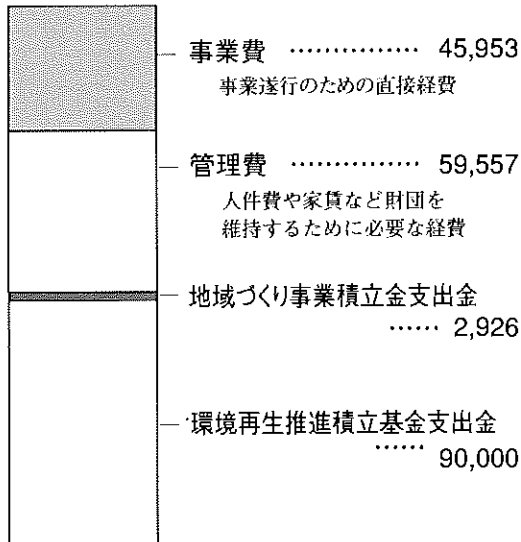
# 2001年度の財政状況

(2001年4月1日～2002年3月31日)

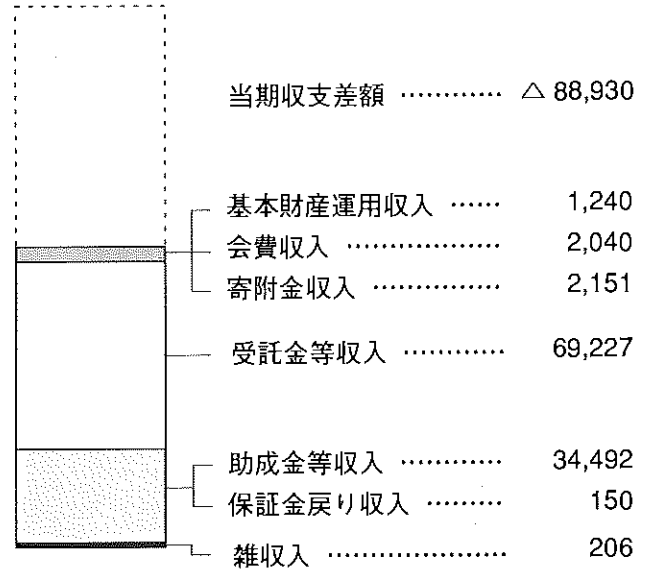
## ● 当期収入・支出の状況

(単位：千円)

支出 合計 198,436



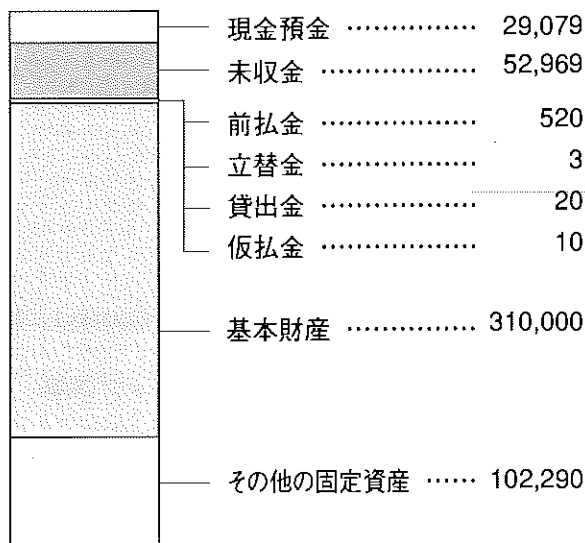
収入 合計 109,506



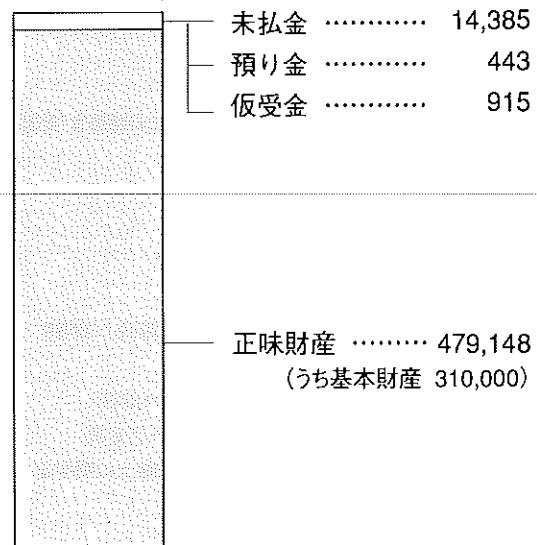
## ● 貸借対照表

(単位：千円)

資産 合計 494,891



負債・正味財産 合計 494,891



## 寄附・寄贈者

- |                       |                   |                        |
|-----------------------|-------------------|------------------------|
| 尼崎公害患者・家族の会           | 小山仁示              | 西口勲                    |
| 天野憲一郎                 | 是枝洋               | 西須磨に循環型公園をつくる会         |
| 井奥圭介                  | 佐賀朝               | 西村弘                    |
| 池上洋通                  | 堺公害患者と家族の会        | 新田保次                   |
| 石川聡子                  | 酒井健一              | (社)日本図書館協会             |
| 茨木市太田公民館一同            | 坂巻幸雄              | 野村和夫                   |
| 岩壺祐里                  | 坂本美禎子             | 羽柴修                    |
| 上杉剛                   | 佐野郁夫              | 長谷川慧重                  |
| 植田和弘                  | 澤井余志郎             | 林つや子                   |
| 上田幹枝                  | 塩貝隆夫              | 林曠子                    |
| SAS研究会                | 重藤英一              | 榛木恵子                   |
| 榎本豊                   | 四条暁市民講座           | 秀平吉朗                   |
| 遠地昭典                  | 柴田昌美              | 檜谷美恵子                  |
| 遠藤宏一                  | 芝村篤樹              | 弘本由香里                  |
| 逢坂隆子                  | (株)ジョイックス         | 福富和夫                   |
| 大阪府保険医協会              | 庄谷邦幸              | 松井克行                   |
| 大阪民主医療機関連合会           | 進士五十八             | 松井清志                   |
| 大谷渡                   | 須田滋               | 松浦公昭                   |
| 岡林一夫                  | (社)瀬戸内海環境保全協会     | 松尾英輔                   |
| 小田康徳                  | 全国保険医団体連合会        | 松田寿春                   |
| 角田しのぶ                 | 千北診療所             | 三苫正勝                   |
| 笠井俊彦                  | 高橋理喜男             | 水俣共立病院                 |
| 傘木隆介                  | 滝口勇               | 水俣病被害者・弁護団全国連絡会        |
| 柏原純夫                  | 卓吉子               | 三村浩史                   |
| 加藤三郎                  | 達野克己              | 三宅宏司                   |
| 川崎公害患者と家族の会           | 田中千               | 三宅直美                   |
| かわさき環境・まちづくり連続講座実行委員会 | 田中春郎              | 都島医療生活協同組合             |
| 川崎美栄子                 | 谷口文章              | 宮前保子                   |
| 川村研治                  | 樽野美千代             | 宮本憲一                   |
| 「環境と公害教育」研究会          | 中部の環境を考える会        | 村杉幸子                   |
| (株)関西総合研究所            | 辻川敦               | 村松昭夫                   |
| 関西大学博物館               | 津留崎直美             | 明治図書                   |
| 北出裕士                  | 電力労働運動近畿センター      | (株)山崎シャーリング            |
| 北山良三                  | 土井三郎              | 山田博                    |
| 木村邦男                  | 東京農業大学            | (財)山梨総合研究所・(財)静岡総合研究機構 |
| 木村保男                  | Thomas&Agnes Inc. | 山西良平                   |
| 清田良次                  | 徳本文三郎             | 吉田巖                    |
| 久保井一匡                 | 長井聖治              | 吉村良一                   |
| 熊野実夫                  | 中島晃               | 立命館大学政策科学部有志           |
| クリーンアップ全国事務局          | 永野千代子             | 立命館大学国際平和ミュージアム        |
| 黒岩晴子                  | 中村昌史              | 歴史学と博物館のあり方を考える会       |
| 小池信太郎                 | 名古屋市立富士中学校        | (株)ワールドフーズ             |
| 小島あずさ                 | なにわ保健生協           | 和田幸子                   |
| 小寺昭彦                  | 新村保子              |                        |

2001年度のインターン生、金丸芙美代さん、友田明美さんのインターン実習修了レポートから、一部を割愛して紹介します。  
なお、笠谷美代子さん(桃山学院大学)のレポートはリベラNo.60(2001.9.20)で紹介しました。

## 私のみた「参加型の街づくり」

立命館大学政策科学部2回生 金丸 芙美代

### 西須磨での新しい試み

インターンの開始と共に私たちは一つのプロジェクトに関わるようになった。それが神戸市西須磨区天神町での新しい道路作りのプロジェクトで、その一環として住民の声をまとめるためのワークショップの運営を任された。

神戸市では震災後に再区画整備事業が盛んに行われ、天神町でも地域の中に新しい道路がつくられるようになった。しかし市が主導した当初の計画はこの地域に片側2車線の大きな道路を通すというものだった。しかし天神町の住民は環境面でも負担が大きく危険もたらす大きな道路は必要ない、未来の子供たちのために必要なのは地域住民主体のコミュニティ道路だと考えた。彼らは計画を拒否、神戸市との調整の結果、道路の設計図までを住民側で作成し、神戸市に提出することになった。これは全国にも例のない新しい試みで、トップダウンといわれたこれまでの日本のやり方を考えると大きな意味を持つことである。しかし、住民が設計図を書くと言っても、技術的な制限や道路交通法などの各種の規制などを踏まえた建設的な提案は現実的に不可能だと考えられる。逆にこれをしようと思えば、彼らは専門家でないぶん、膨大な労力と時間を犠牲にする覚悟が必要になる。そこで、実際の道路の建築を担う建築事務所と専門知識をもたない利用者＝住民とのあいだにたって調整をする役割を財団が担うことになったのだ。

### 住民の描く道路とワークショップ

私たちが関わるようになって最初に企画したのは、新しくできる道路に子どもたちのアイデアを活かし、これからできる道路に愛着を持ってもらうための「子どもワークショップ」だった。このほかに、大人を対象に、新しい道路のコンセプトをはっきりさせようとしたワークショップ、ここから出てきた2つのコンセプト案に基づいて作った二通りの設計案を比較検討・改善するためのワークショップ、これを最終的に一つにまとめるワークショップなどが行われた。

### 「住民参加型の街づくり」の意味

住民の意識を探るところから初めて、一年がかりでそれを図面にするという作業は確かに非効率的なものということができるだろう。しかしまわりくどいとも言えるくらい

丁寧に丁寧に様々な過程を経て、「住民が作る道路」を実現するというやり方から、財団の目指す新しい開発の方向を見ることが出来るのではないか。つまり財団の考える「公害に屈しない地域」とは、地域住民自身が自分の住む地域のことを考え、自分たちの抱える問題を認識し、それを解決するためになんらかの方法で動くことができる力を持つ地域のことなのではないだろうか。そして従来型のトップダウン方式による開発、経済成長のための開発ではなく、地域地域にこうした力を持たせ、そして地域が主体となってまちをつくっていくことがイコール財団の考える新しい開発システムなのではないだろうか。

### コーディネーターの専門性

このインターンで私は、住民と実施者との双方に中立な立場でお互いを調整し建設的な案を作り上げるコーディネート業務、コンサルタント業務といった関わり方を体験した。この体験を通して発見したものは、「調整役(コーディネーター)の専門性」である。住民自身の決定権を最大限尊重し、決定に至るまでの過程を大事にすることで住民自身が主体となるだけの「力」をもてるようにしつつ、責任と負担を押し付けるのではなくいろいろな仕掛けから彼らの想いを引き出す。そして技術的な事情を考慮しながらそれを形にしていく。私はこれまで、その重要性について考えることもなく片手間のできるような感覚でいたが、普通の人の想いと技術的な問題の両方を効率的に掛け合わせるためには、天神町で財団が担ったような専門的コーディネーターの存在が必要とされるのではないだろうか。

これらのワークショップではそれぞれガリバーマップと道路要素カードをいう仕掛けを使って、言葉にしにくい、もしかすると住民自身にも認識されていない想いを顕在化した。道具を使い作業しながら、参加者同士の関係の中で全体としての意思が形になるという体験は、自分の主張がなかなか活かされなかったとしても、それぞれが理解し納得する道路を創るために非常に重要な要素になったのではないか。「参加」という言葉が上からの押し付けではなく、住民それぞれの胸の中に実感として残されたという点で、私は今回本当の意味での「住民参加型まちづくり」の一例に触れることが出来たと思っている。

(かなまる ふみよ)

# コンサルタントの魅力

立命館大学経済学部経済学科 国際経済協力コース3回生 友田 明美

インターンシップ先の「あおぞら財団」は、1996年9月、西淀川における被告企業との和解金の一部を基金にして、環境庁所管の公益法人として発足した。財団は3つの部門（地域づくり部門、公害経験部門、環境保健・学習部門）を柱として様々な事業を展開している。その活動は、国内にとどまらず海外へと幅広いものである。私は、夏から一貫して神戸市西須磨地区の道路づくりワークショップの事業に関わってきた。このワークショップにおける住民参加の意味や、子どもワークショップの反省点を基に、以下述べていきたい。

## 1. 道路づくりワークショップ

これまでのプロセス

西須磨地区は、1995年に起こった阪神淡路大震災で多くの被害を受けた。そこで神戸市は震災復興として、須磨多聞線（高架道路）や中央幹線など、3路線の事業計画を決定した。これに対して、多くの住民は反対運動に取り組んだ。これらの道路が自分達の街に公害をもたらし、地域を分断するもの、という理由からである。そのため、4車線の中央幹線を通そうという、都市計画道路事業は未着工のままになっていた。両者の話し合いの結果、神戸市と天神町3・4・5丁目自治会の間で、中央幹線の天神町区間においては4車線ではなく、2車線にして、人と環境にやさしい「公園のような道路」として整備し、その設計案を住民が中心になってつくっていくことで合意が成立した。そして、そのコーディネーターとして、「あおぞら財団」が指名された。また、こういった住民主体の道路づくりは全国で初めての取り組みである。

なぜ住民参加なのか？

住民主体の道路づくりは全国で初めての取り組みである。行政側、この場合は神戸市が一方的に決めるのではなく、実際にその地域に住み、生活している人々が道路の設計案の時点から参加することにより、住民の方々の意見が反映され、ニーズに合った、より親しみやすい道路づくりが実現するのではないだろうか。しかし、道路づくりには専門的な知識や、技術的な観点が必要なため、住民の力だけでは難しい。そこで今回のプロジェクト全体を「あおぞら財団」がコーディネートしている。また、建設コンサルタントや、技術支援、及び道路予備設計を各専門家が担当することになった。

## 2. 子どもワークショップ

なぜ子どもなのか？

「ワークショップ」とは、多くの発見や意見を整理した

り、分かりやすい絵図にしたりしながら、街の将来の姿を描いていく作業をいう。

なぜ、子どもワークショップなのか？この子どもワークショップの狙いは、①道路づくりに子どもたちの自由な発想を反映すること。②これからできる道路に対する愛着をもってもらうきっかけとすること。③道路づくりやその利用において、学校と地域の連帯を進めるきっかけとすること。以上3つである。簡単に言えば、大人とは違う、子どもの視点を知ること、また、そこから生まれてくる新しい視点、将来この道を受け継ぎ、管理していく子どもに関心を持ってもらう、という狙いであった。

CGの意義

今回のワークショップではCG（コンピューター・グラフィックス）が積極的に活用された。CGの良い点は、「分かりやすさ」である。住民の方々にとってワークショップは初めての方も多く、私を含め、道路づくりに関する専門的な知識が薄い。そういった人にとって、この「分かりやすさ」というのはとても重要なことである。実際CGを使うことにより、議論上では出てこなかった新たな意見や、発見、気づき等を住民の方々から引き出したことは、ワークショップ全体の成功につながったのではないだろうか。

おわりに

私はこれまで道路づくりについて真剣に考えたことがなかった。そんな私が道路づくりのワークショップの企画や運営方法を考えるということに、正直戸惑いもあった。実際に何から手をつけていいのかが分からなかった、というのが本音である。「道路」は、私達が生活していく上で大変身近なもので、多かれ少なかれ毎日利用する。しかし、私自身、その「道路」を自分達がつくるという視点が今まで存在しなかった。「道路」というのは、行政側が一方的に私達に提供するものであるという認識でしかなかった。しかし、この考えは間違っていた。自分達の使うものは、自分たちでより使いやすいように考え、提案していく必要がある。その手助けをしているのが、今回のインターン先である「あおぞら財団」である。今ではコンサルタントという仕事に大変魅力を感じている。インターンシップ全体を通して、自分の考えを言語化することの難しさ、自分の意見や考えを相手に伝えることの難しさを嫌というほど実感した。そして、その度に自分の無力さを感じてきた。すべてが初めての経験でうまくいくことばかりではなかったが、自分自身についても見つめ直す良い機会になった。

（ともだ あけみ）

## 財団の活動に関する報告書など

### 西淀川地域再生事業

- 平成13年度環境省請負調査  
『大阪市臨海部における貨物自動車の使用自主管理に関する調査研究報告書』2002年3月
- 2001年度助成研究  
『大阪市臨海部における貨物自動車の使用自主管理に関する調査研究報告書』研究代表者:新田保次(大阪大学工学部) 2002年3月
- 西淀川公害患者と家族の会委託調査  
『阪神地域における貨物自動車・環境TDMの提案』 2001年5月  
『人と環境にやさしいトラック輸送のために』2002年1月
- 2001年度調査研究  
『西淀川地域沿道まちづくりに関する調査報告書』((特活)地域デザイン研究会)2002年3月

### 環境再生政策形成事業

- 平成13年度環境事業団地球環境基金助成事業
- イオングループ環境財団共催事業
- 平成13年度環境省請負業務  
『21世紀を環境再生の時代へ—NGO国際会議・市民のつどい—報告要旨集』2001年11月  
『21世紀を環境再生の時代へ—NGO国際会議・市民のつどい—記録集』2002年3月
- 平成13年度環境省請負調査  
『五感をいかす地域づくり～空き地活用にむけた市民提案づくりのヒント集～』2002年3月
- 平成13年度環境省請負調査  
『平成13年度「気づき」を促す温暖化防止啓発活動に関する調査業務報告書』2002年3月
- 『参加型アセスの手引き—よりよいコミュニケーションのために—』(財務省印刷局:発刊)2002年1月
- 西須磨道路づくり支援事業  
『中央幹線基本計画策定業務(住民意見集約業務)報告書』 2002年3月
- (特活)NPO政策研究所委託業務  
『大阪湾ベイエリアにおけるNPO・企業・行政の協同による自然再生型活用方策に関する調査研究報告書』2002年5月

### 環境保健推進事業

- 社会福祉・医療事業団助成事業  
『喘息患児のQOL向上に着目した園芸活動報告書』 2002年3月
- 全国労働者共済生活協同組合連合会助成事業  
『大気汚染公害病患者のQOL向上に着目した園芸リハビリテーション活動事業報告書』2002年6月
- 環境省委託調査研究  
『平成13年度公害病認定患者等の療養生活の向上に関する調査研究委託業務報告書』2002年3月
- 大牟田市委託業務  
『平成13年度大牟田市公害健康被害補償福祉事業検討調査事業報告書』2002年3月

### 公害問題資料保存・活用事業

- 平成13年度公害健康被害補償予防協会委託業務報告書  
『大気汚染公害問題資料の保存とデジタル・アーカイブ化に関する調査研究報告書』2002年3月
- 平成13年度公害健康被害補償予防協会委託業務報告書 付属資料  
『西淀川公害訴訟関係弁護士・住民運動資料第1次目録(第4集)』2002年3月

### 公害・環境学習プログラム形成事業

- 平成13年度環境基本計画推進調査  
『パートナーシップによる環境教育・環境学習の推進調査報告書』2002年3月
- 平成13年度環境省請負業務  
『交通環境教育のすすめ～SCPブロックでみる地域環境の変化～』2002年3月
- 平成13年度環境事業団地球環境基金助成事業  
『西淀川公害に関する学習用パネル～知っていますか?西淀川の公害～解説・資料集』2001年6月

### 活動交流・広報事業

- 機関紙『Libella』 No.56～65
- あおぞら通信(No.5)2001年7月
- あおぞら財団年次報告書 Vol.4(2000.4～2001.3)

財団の活動に関する報道など

2001.04.05	ライブタウンvol.198	にしよど自然ふれあい塾
2001.04.12	読賣	自然に親しむ塾25日
2001.04.15	大阪民主新報	人も自然も大切にされるまちづくりへ
2001.04.25	大阪日日	トラック運行を制御 低公害車の導入促進 大気汚染減少へ社会実験 阪神地域TDM案を策定 公害地域再生センター
2001.05.06	読賣(朝刊)	阪神高速神戸線から湾岸線に半額なら「う回」66% 近隣事業者を地元団体調査
2001.05.08	朝日(朝刊)	公害の解決策考える報告会 きょう中央区で
2001.05.27	神戸(朝刊)	住民主導で整備案 西須磨都計道路 全国でも異例神戸市も了承 協働参画の新方式
2001.05.28	毎日(朝刊)	榎井縁のボランティアパワー あおぞら財団日本の公害経験をアジアに
2001.05.29	毎日(朝刊)	阪神高速湾岸線料金半額化を提言へ 貨物調査43号利用者「半数う回」あおぞら財団
2001.05.30	読賣(夕刊)	ロードプライシング早期実施などを要望 西淀公害訴訟原告団
2001.06.20	朝日(朝刊、阪神版)	阪神高速神戸線 ロードプライシングを 通行量削減対策をあおぞら財団提言 住宅地交通対策も併せて
2001.06.04	神戸(朝刊)	西須磨都計道路 愛着わく道へ検討開始 天神町自治会まち協を結成 初ワークショップ
2001.06.04	読賣(朝刊、神戸版)	須磨の幹線道延伸、拡幅計画 住民主導目指し協議会 自治会結成
2001.06.04	朝日(朝刊)	西須磨地区の都市計画道路 設計は住民が主役 まちづくり協議会発足
2001.06.07	赤旗(朝刊)	西淀川公害患者と家族の会 東京農大で特別講義
2001.06.14	読賣(朝刊)	「道路公害」改悪へ企業の意識前進 あおぞら財団調査 大阪市・臨海部事業所のトラック利用 6割、輸送経路に配慮 ロードプライシングにも積極的
2001.09.09	読賣(朝刊)	須磨の都市計画道路整備 児童の自由な発想歓迎 協議会がワークショップ 全国初の子供参加
2001.10.10	サンTV	「ニュースEyeランド」(ロードプライシングについて)
2001.11.17	朝日北九州版(朝刊)	「今世紀は環境再生」23・24日学研都市10カ月のNGO会合
2001.11.20	読賣北九州版(朝刊)	北九州市で環境NGO国際会議23・24日、10カ国集う
2001.11.21	毎日北九州版(朝刊)	環境再生を考える 23日から若松でNGO国際会議 「北九州会議」に呼応
2001.11.25	朝日北九州版(朝刊)	環境NGO会議 汚染の責任明確化訴え 各国から事例報告
2001.11.25	西日本(朝刊)	「北九州アピール」採択し環境NGO国際会議閉幕
2001.11.25	読賣北九州版(朝刊)	環境復元へ決意 NGO国際会議 北九州アピール採択事例報告、パネル討論し閉幕
2001.12.11	小倉タイムス	NGO国際環境会議 失った山河の再生回復を
2001.12.12	京都(夕刊)	現代のことば 環境再生 宮本憲一
2002.01.24	読賣(朝刊)	エコ掲示板 企画展「西淀川公害と地域の再生」
2002.01.28	朝日(朝刊)	アセスへの不信住民対話で除け 環境省が手引書
2002.01.28	神戸(朝刊)	“夢の道路”最終案固まる 須磨・天神町の計画「副道」設置し遊歩道生かす 住民が検討会
2002.02.06	大阪日日	大気汚染、ぜんそく…「西淀川公害と地域の再生」展 クリーンな町へ課題探る
2002.02.19	サンテレビ	News Eye 西須磨地域の道路づくり
2002.02.25	物流ニッポン	「運送会社の苦悩わかった」トラック輸送を考える懇談会 あおぞら財団
2002.03.04	物流ニッポン	「できることから一緒に」人と環境にやさしいトラックへ あおぞら財団
2002.03.04	神戸(朝刊)	西須磨・天神まち協が総会 道路整備案に提出へ 空き地問題など 話し合い継続
2002.03.04	読賣(朝刊)	須磨区の幹線道整備 遊歩道や緑地設置 地元協議会が計画案作成 月末にも市に提案

## 役員 (50音順、敬称略)

### 【理事長】

森脇 君雄 (全国公害患者の会連合会幹事長、西淀川公害患者と家族の会会長)

### 【理事】

アグネス・チャン (歌手、日本ユニセフ協会大使、教育学博士)

芝村 篤樹 (桃山学院大学教授、日本近代都市史)

進士五十八 (東京農業大学学長、造園学)

芹沢 芳郎 (大阪から公害をなくす会会長)

早川 光俊 (弁護士、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事)

三村 浩史 (京都大学名誉教授、関西福祉大学教授、都市計画論)

宮本 憲一 (滋賀大学学長、環境経済学)

森嶋 昭夫 ((財)地球環境戦略研究機関理事長、中央環境審議会会長、名古屋大学名誉教授、法学)

### 【監事】

熊野 實夫 (公認会計士)

村松 昭夫 (弁護士)

### 【顧問】

高橋理喜男 (大阪府立大学名誉教授、造園学)

都留 重人 (一橋大学名誉教授)

### 【評議員】

天野 明弘 (関西学院大学教授、環境経済学)

植田 和弘 (京都大学大学院教授、環境経済学)

逢坂 隆子 (大阪健康福祉短期大学教授、公衆衛生学)

太田 映知 (全国公害患者の会連合会事務局長、(財)水島地域環境再生財団理事・事務局長)

北元 敏夫 (同志社大学講師、西淀まちと自然の会幹事、森林生態学)

小池信太郎 (公害・地球環境問題懇談会幹事長)

高田 昇 (立命館大学教授、大阪都市環境会議幹事長、都市計画論)

辰巳 致 (西淀川公害患者と家族の会事務局長)

壺井 貞志 (環境保全事業協同組合理事長)

津留崎直美 (弁護士)

徳本文三郎 (元世界長株式会社専務取締役)

西川 栄一 (神戸商船大学教授、環境工学)

樋口 市蔵 (西淀川区福町在住)

村杉 幸子 ((財)日本自然保護協会理事)

### 【事務局】

上田 敏幸 (総務主任)

大野みさ子 (会計主任)

傘木 宏夫 (研究主任)

片岡 法子 (研究員)

達脇 明子 (研究員、博物館学芸員、図書館司書)

鎗山善理子 (研究員)

矢羽田 薫 (研究員)

水野 順子

(2002年9月現在)

あおぞら財団の基金には、大気汚染によって健康や生命を奪われた患者たちが起こした西淀川公害裁判の和解金の一部があてられています。



財団法人公害地域再生センター (あおぞら財団)

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 三洋ビル 4階

TEL: 06-6475-8885 FAX: 06-6478-5885

URL: <http://www.aozora.or.jp/>

E-Mail: [webmaster@aozora.or.jp](mailto:webmaster@aozora.or.jp)

無断転載/掲載を禁じます。